

平成27年度

学校経営計画（スクールマネジメントプラン）  
（ 計画段階 ）  
【 分掌・教科 】

京都府立東稜高等学校

## 平成27年度 府立東稜高等学校 学校経営計画

平成27年4月1日

### □ 教育目標

「人間力」と「質の高い学力」を育み、社会に貢献できる人間を育成する。

### □ 学校経営方針（中期経営目標）

「真の自己実現にTRY」をスローガンに、教育目標実現に向けたキャリア教育の推進を継続し、生徒が「伸びる」・生徒を「伸ばす」学校を目指す。本府「教育振興プラン」及び「学校教育の重点」を踏まえ、学習指導要領に即して創意・工夫した教育課程を編成し、日々の教育活動の充実に努め、希望進路の実現と、心豊かにたくましく生きる人間の育成を図る。

- 1 地域・生徒・保護者に信頼され、期待される学校として教育活動を推進する。
- 2 生活規律、学習規律を確立し、「自学」の習慣を定着させ、希望進路実現を図る。
- 3 部活動を活性化をさせ、府・近畿・全国で活躍する部活動の育成を図る。また、地域諸団体とも連携し、地域スポーツ及び文化の振興に寄与する。

### □ 本年度学校経営の重点目標（短期経営目標）

- 1 キャリア教育における取組み内容の一層の体系化及び精選。
- 2 キャリアコースにおける課題整理及び具体的改善策の検討。
- 3 希望進路を実現するための取組推進。
  - (1) 日々の授業を柱として、基礎学力の定着、発展的学力の育成を図る。
  - (2) 進路指導会議を軸とし、各種模試の結果分析等を通して一人一人の状況を把握し、弱点克服のための方策を講じる。
  - (3) SHRや自習スペースの活用等により学習習慣の定着を図る取組を行う。
  - (4) ICTを活用した授業に習熟し、「生徒に学力をつける授業」の構築を図る。
- 4 生徒指導の更なる充実。
  - (1) 家庭と緊密な連携をとり基本的な生活習慣を確立する。
  - (2) 頭髪加工及び身だしなみに係る生徒指導の徹底を行う。
  - (3) 生徒会活動、部活動の充実を図る。
- 5 自他の生命と人権を大切にす意識や態度を培う取組の推進。

### □ 前年度の成果と課題

- 1 学力向上フロンティア校支援事業における取組を推進することができた。
- 2 学習の基礎・基本を徹底させて学力の向上を目指す「学びの原点」を活用することができた。
- 3 「サイエンスリサーチシリーズ」・「ヒューマンリサーチシリーズ」を継続実施する等、高大連携の充実を図ることができた。また、大学や地域から社会人講師を招いたり、カタリ場や施設見学するなど、キャリア教育に関する行事の一層の充実が図れた。
- 4 交通安全指導では、交通安全週間に、PTAの役員の方々にも協力していただいた他、地域から様々な情報をいただき、危険箇所については教員とともに山科警察署員の方にも指導していただいた。また、醍醐十校区自治連合会交通安全推進委員の方々にも協力していただき、交通安全キャンペーンを展開することができた。
- 5 学校説明会、ホームページ、「東稜だより」の定期的発行等を通じて、情報発信を積極的に行い、中学校や地域社会から本校に対する理解をより得られることができた。
- 6 部活動加入率は目標をやや下回ったが、全国大会や近畿大会への出場、また吹奏楽部コンクール小編成の部銀賞授賞などの成果があった。部活動加入率を高め、より多くの部で一層の活躍を期待したい。
- 7 授業公開（授業参観）、研究授業を活用して、授業力の一層の向上を図り、生徒の家庭学習時間の増加や学習意欲の向上を目指したい。

(別記様式)

平成27年度 京都府立東稜高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ **計画段階** ・ **実施段階** ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>「真の自己実現にTRY」をスローガンに、教育目標実現に向けたキャリア教育の推進を継続し、生徒が「伸びる」・生徒を「伸ばす」学校を目指す。</p> <p>本府「教育振興プラン」及び「学校教育の重点」を踏まえ、学習指導要領に即して創意・工夫した教育課程を編成し、日々の教育活動の充実にも努め、希望進路の実現と、心豊かにたくましく生きる人間の育成を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 地域・生徒・保護者に信頼され、期待される学校として教育活動を推進する。</li><li>2 生活規律、学習規律を確立し、「自学」の習慣を定着させ、希望進路実現を図る。</li><li>3 部活動を活性化をさせ、府・近畿・全国で活躍する部活動の育成を図る。また、地域諸団体とも連携し、地域スポーツ及び文化の振興に寄与する。</li></ol>	<ol style="list-style-type: none"><li>1 学力向上フロンティア校支援事業における取組を推進することができた。</li><li>2 学習の基礎・基本を徹底させ学力の向上を目指す「学びの原点」を活用できた。</li><li>3 「サイエンスリサーチシリーズ」・「ヒューマンリサーチシリーズ」を継続実施する等、高大連携の充実を図ることができた。また、大学や地域から社会人講師を招いたり、施設見学するなど、キャリア教育に取組も充実できた。</li><li>4 交通安全指導では、交通安全週間に、PTAの役員の方々にも協力していただいた他、地域から様々な情報をいただき、危険箇所については教員とともに山科警察署員との連携を図ることができた。また、醍醐十校区自治連合会交通安全推進委員の方々にも協力していただいて、交通安全キャンペーンを実施できた。</li><li>5 学校説明会、ホームページ、「東稜だより」の定期的発行等を通じて、情報発信を積極的に行い、中学校や地域社会から本校に対する理解を得られた。</li><li>6 部活動加入率は目標をやや下回ったが、全国大会や近畿大会への出場、または吹奏楽部コンクール金賞受賞などの成果があった。部活動加入率を高め、より多くの部で一層の活躍を期待したい。</li><li>7 授業公開（授業参観）、研究授業を活用して、授業力の一層の向上を図り、生徒の家庭学習時間の増加や学習力向上を目指したい。</li></ol>	<ol style="list-style-type: none"><li>1 <b>キャリア教育における取組み内容の一層の体系化及び精選。</b></li><li>2 <b>キャリアコースにおける課題整理及び具体的改善策の検討。</b></li><li>3 <b>希望進路を実現するための取組の推進。</b><ol style="list-style-type: none"><li>(1) 日々の授業を柱として、基礎学力の定着、発展的学力の育成を図る。</li><li>(2) 進路指導会議を軸とし、各種模試の結果分析等を通して一人一人の状況を把握し、弱点克服のための方策を講じる。</li><li>(3) SHRや自習スペースの活用等により学習習慣の定着を図る取組を行う。</li><li>(4) ICTを活用した授業に習熟し、「生徒に学力をつける授業」の構築を図る。</li></ol></li><li>4 <b>生徒指導の更なる充実。</b><ol style="list-style-type: none"><li>(1) 家庭と緊密な連携をとり基本的な生活習慣を確立する。</li><li>(2) 頭髪加工及び身だしなみに係る生徒指導の徹底を行う。</li><li>(3) 生徒会活動、部活動の充実を図る。</li></ol></li><li>5 <b>自他の生命と人権を大切にする意識や態度を培う取組の推進。</b></li></ol>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	本校における特色ある教育活動を、全教職員の共通認識に基づいた取組に落とし込み、一体感または、支援する心を持って、援助・推進していきける体制づくりに努めて充実させる。	教職員間での挨拶の励行等を徹底する。また、建設的な意見交流を活発にしやすい、各間の連携強化に力を注ぎ、明るく活発な職場づくりを構築するとともに、学校経営方針の徹底と浸透を図る。各事業・各行事等の窓口と役割分担を明確にし、情報の共有化を図り、頑張ろうとする生徒を支援できるように、各分掌間の連携を深め、実践力を高める。		
	本校の特色ある教育活動のバランスを図りながら工夫を加え、また、次年度以降を睨み、向こう10年間、地域や保護者から信頼され、期待される東稜高校としての将来構想を具体化し発信する。	次年度以降に向けて、東稜高校の将来構想に繋げ、さらに取組を充実・発展させるために、キャリア教育推進会議、キャリアコース検討会議等を積極的に有効活用する。また、各種事業の継続と発展を図る。		
教育課程の編成と実施	東稜高校の将来構想に基づき、各コースに対応した特色ある教育課程を編成する。	平成28年度入学生において、各コースにおける生徒の興味・関心・進路希望等に対応した特色ある教育課程を編成する。		
	教育課程の実施状況を点検し、評価・反省に基づく改善を行う。	キャリアコースの新構想に関して、各種会議や関連分掌等と協議を深め、特色ある教育課程を研究する。 平成26年度、27年度入学生（1、2年生）における日常の学習状況や進路希望等を分析し教育課程を検証し、必要があれば改善する。		
学習指導	授業規律を確保し、授業と家庭学習習慣を大切にすることを育成する。	始まりのチャイムから終了のチャイムまでの50分間の授業を大切にする。教科・学年・生徒指導等と連携し、授業規律に課題のある生徒の早期指導に努める。朝SHRを円滑に実施することで、落ち着いたある授業を押し進める。		
	基礎学力の向上を目指し、原級留置・中途退学者を減少させる。	シラバス及び年間授業計画により、指導目標を明確にし、その上にたった教科指導を実施する。基礎・基本の充実及び習得のため、研究授業を通して効果的な指導の方策を研究し実施する。教科と連携し、基礎学力補充の計画的実施とその内容の充実を図る。		
	「適切な評価」に努め、類・類系、コースに応じた学力の伸長を図る。	教科と連携し、研究授業や研修会等をとおして学力を伸ばす授業や評価についての研究・改善を行う。 アカデミーコースでは土曜授業の円滑な実施に努め、学ぶ意欲と知識を活用しようとする態度を育成する。		

生徒指導 特別活動	部活動、特別活動や体験学習を通じて、規範意識を確立させ、積極的に社会へ貢献する意欲・態度を養成する。	部活動加入率を男子70%、女子50%以上に引き上げ、次年度以降を見据えて、中学生や保護者から認知される部活動へと活性化を図り、内容を広報するとともに競技力の向上を図る。また、地域中学校との交流をさらに強化し、地域密着型の部活動としてのあり方を検討し、発信する。地域や各関係機関主催の各種行事に生徒会やキャリア系クラスを中心に積極的に参加させる。各種ボランティア活動により一層、積極的に参加する生徒の育成を目指し、全校的な取り組みへと展開する。			
	基本的な生活習慣の確立を図り、規範意識を育成する。	立門指導、校内・校外巡回指導や身だしなみ指導の効率化と効果向上を図る。「東稜ハイスクール・ハンドブック」の活用と実践を充実させる。駐輪・交通安全指導週間や遅刻指導を通じて、登下校時の自転車通学におけるマナーの向上や授業規律の確保、基本的な生活習慣の確立を図る。学年部との連携のうえ、各学年生徒の特徴を把握するとともに学年アッセンブリー等を活用して、タイミングを逸さない指導（啓発・呼びかけ等）を徹底する。			
	深い信頼関係に基づく人間関係を育成し、明るく他者を思いやれる望ましい集団を構築させる。	生徒会活動に助言・指導・支援をして各種委員会を積極的に活動させ、質の向上を図る。新入生歓迎会、文化祭、体育祭、生徒総会等の一層の内容の充実と企画提示を図る。			
進路指導	生徒の3年間を見通した進路指導・進路学習を行う。	計画的に説明会、見学会、体験学習等を実施し、進路意識の向上を図る。あらゆる機会を捉えて、生徒の人間力、将来の社会人としてのマナーの向上を図る。			
	就職希望者への指導の一層の充実を図る。	就職対策講座の充実を図るとともに、社会常識を身につける指導の徹底を図る。企業訪問等を積極的に行う。			
	進学希望者へのきめの細かい指導の一層の充実を図る。	実力テスト等の結果を分析し、教科・学年の学習指導に役立てる。進路補習、学習合宿等を行い、学力の伸長を図る。			

人権教育	あらゆる教育活動を通して、基本的 人権を尊重する精神の涵養を図る。	学校や地域の実態に即した人権教育推進計画を年度当初に策定し、全校で推進する。また日常的に計画の実施状況を点検、評価を行い、改善を図りながらの実践を推進する。				
	自己と他者を尊重する豊かな感性を 育み、実践できる態度を育成する。	人権教育会議で人権学習や講演会の企画・立案を行い、関係分掌、教科、当該学年と連携して実施する。 人権を考えるためのアジゲードを実施し、その分析を通してよりよい人権学習を構築する。人権学習後に感想文を書かせて、学習効果を検証しながら改善を図る。				
健康・安全 教育	交通安全や薬物に対しての正しい知識と理解を深め、規範意識の向上と 道徳観を育成する。	1年生対象に「薬物乱用防止講演会」「非行防止講演会」「情報モラル教育」を実施する。 山科署交通安全課、醍醐十校区自治連合会、PTAとの連携を密にし、登下校時の交通安全指導(特に自転車走行のルール遵守)を推進する。 通学別に自転車危険箇所通学生徒対象に事前指導を徹底して、安全走行マナーの習得を推進する。				
	支援を必要とする生徒に対する情報を 教職員が共有し、協力して具体的 な支援ができる体制を作る。	教育支援会議で生徒の情報を掌握し、職員会議などで共有する。 教職員によるチームや外部機関との連携によって、個々の生徒に応じた支援をする。 教育相談や特別支援についての理解を啓発する。				
	生徒が自分自身の身体や心について の理解を深め、自己管理できる能力 をつけられるよう働きかける。	性や社会的スキルに関する知識を持ち、実際に応 でできる力を身につけさせる。 講演会だけでなく、保健だよりや掲示物を通じて、 生徒の意識を啓発する。 相談や支援を必要とする生徒に対して個別に粘り 強く指導する。 委員会活動を充実させ、生徒が自主的に取り組む 仕掛けを作る。				

学校図書館	生徒の読書意欲を喚起できるような学校図書館のあり方を模索する。	「図書館まつり」等のさまざまなイベントを企画実行し、図書館を生徒にとって身近な存在にできるよう努力する。 検索・リファレンスサービス機能をより一層向上させ、利用者の利便向上を図る。 「おはよう読書」活動を本校の現状に見合った形に変え、より意義のあるものにする。 生徒が自主的に運営できるような図書委員会活動のあり方を模索する。			
	視聴覚教育の充実を側面から支援する体制構築を進める。	視聴覚機器の更新・充実を進め、利用しやすい環境整備に努める。			
	芸術文化教育のより一層の充実を図る。	芸術文化団体鑑賞会を実施するとともに、今後のより良いあり方を検討する。			
学習環境 安全管理	学習環境や生活環境を整え、生徒の美化・衛生意識を向上させる。	日常の清掃活動に取む意識を高める。 校内に姿見を設置して、自己点検する意識を育てる。 花壇を充実させ、学校に安らぎの空間を作る。			
施設・設備 管理	安心・安全で教育効果向上に繋がる施設・設備環境の維持・管理に努める。	生徒・教職員の情報交換連携と巡回等により破損・危険箇所の早期発見・早期対応体制を推進する。 効率的な予算執行により教育環境の改善を更に押し進める。			
情報・文書 管理	適正な文書管理による情報管理体制を推進する。	文書の保管・廃棄など校内文書の適正な管理を通じ、より確実な学校情報の管理体制を確保する。			
修（就）学 支援	修（就）学機会保障のための支援策を充実させ、保護者への情報提供を促進する。	在学中や卒業後の経済的不安を軽減し、修（就）学機会の確保を押し進めるための支援策を広く紹介することにより、希望進路の実現を援助する。			

家庭・地域 社会との連携	活発な広報活動や情報発信を行うとともに、本校の特色ある様々な教育活動と未来像を発信するための企画を充実させる。	東横だより、学校案内パンフレット、ポスター等を発行し、本校の魅力をアピールすることにより、生徒に選ばれる学校としての広報を強化する。ホームページやお知らせメールを通じて、保護者や地域への情報発信を行うとともに、その内容を、各分掌、教科等と連携を図りながら着実に進めていく。			
	P T A活動と連携を図り円滑な運営に寄与する。	P T A活動に積極的にに関わり、社会見学、文化講座、会報誌などの取り組みを実りあるものとする。また、保護者の悩み相談など、保護者間の交流を図り、開かれたP T A活動を実施する。			
	地域に信頼される学校として、各種の地域行事、関連行事などへの積極的な参加を推進する。	地域との交流を積極的、継続的に実践し、「人間力」を育むキャリア教育の一翼を担う。また、ボランティア活動など、地域への貢献・地域に寄与する学校としての取組を充実させる。			
学 年	【第1学年】 高校生としての自覚と目標を持ち、落ち着いた学校生活を送らせる。 また、学年、学級指導を計画的に行い、自己と他者の関わりを大切に、互いに協力し合って高め合える学年づくりを目指す。	時間とルールを守り、言葉遣いや身だしなみなどを整え、基本的な生活習慣を確立させる。学級活動や面談を通して、進路意識を育み、自覚意識を持って授業や部活動に取り組ませる。研修旅行などの学年全体での取組を通して、「思いやり」の心を行動に繋げ、互いの個性を尊重して協力し合える集団づくりを目指す。			
	【第2学年】 学校の中核の学年としてのさらなる自覚と豊かな人間性を備えた高校生活を送らせる。また、進路指導の確立に向けて計画的な指導をする。	挨拶、言葉遣い、服装など基本的な生活習慣をさらに定着させる。授業に集中させ、家庭学習や自学自習の習慣をつけることで、学力の向上を図る。進路学習などを通し、自分の将来を真剣に考え、具体的な進路目標を立てさせる。学校行事を通して、自主的で規律ある集団をつくり、本校の中心的存在としてリーダー性を育てる。			
	【第3学年】 最終学年として自覚を持たせ、進路実現に向けて充実した高校生活を送らせる。	挨拶や言葉遣いなど、社会で必要なマナーを身につけさせる。授業を大切に取組ませ、学力の充実を目指す。個人面談を密にして個に応じた進路指導を行い進路の実現を図る。文化祭の演劇発表、自主活動の充実努める。			



平成27年度 府立東稜高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階・実施段階）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
国語科	生徒の意欲と努力を喚起し、評価する。	生徒の意欲を引き出す課題を提示し、積極的に評価する。 小テストを継続的に実施し、漢字が語彙力や古典語力を定着させる。		
	進路を意欲した発見的な学力を育成する。	進路学習を積極的に受講させ、継続させる。 社会人講師を活用して、幅広い考え方と感じ方を身に付ける。		
	社会人として基礎力を育成する。	1年次より自己理解を促進し、文章表現力をつける。 アクティブラーニング型の授業を取り入れ、コミュニケーション能力をつける。		
	教員間の連携を築き、共通理解を努める。	教科や年度の打合せを綿密にし、試験の一部共有化を試みる。 生徒の情報を共有化し、指導に役立てる。		
地歴公民科	個々の生徒に合わせた指導のあり方を追求し、生徒の興味・関心・学習意欲を喚起させる教科指導・評価法をさらに工夫する。	学習ノートやプリント等の提出により生徒の知識定着度・理解度を日常的に確認する。 研究授業等を活用し、指導者の交流を推進する。		
	自ら積極的に学ぶ力をつけ、発見的な学習をさせる。	視覚教材を積極的に利用して、生徒自らの学ぶ姿勢を喚起するとともに、学習成果の定着を図る。 社会人講師等の活用、高大連携・ヒューマンリサーチシリーズを推進し、発見的学習の充実を図る。		
	生徒の進路目標に合わせた授業を行う。	クラスの特長や生徒の適性・進路に合わせた教科別授業方法を工夫する。		
数学科	「わかりやすい」「理解できる」授業を実践し、不認定者数を減らす。	小学校・中学校でのつまずきを認識し、克服できる授業を入学当初に行う。 問題集の提出、平常テストや長期休業明けの課題テストなどをこまめに行い、基礎学力を定着させる。 コースに合わせた到達目標を設定し、連携しながら授業を進め、目標に達していない生徒に対しては各自補習を行う。 公開授業後の振り返りを充実させ、教科指導力を高めよう。		
	進路実現に向けた取組を積極的に行う。	府立高校実力テスト、進研実力テストなどの事前指導、事後指導を充実させる。 長期休業中に進学希望者対象の補習を実施する。 進学希望に沿った平常進路補習の充実を図る。		
	高大連携を積極的に行う。	大学からの出前授業等を行い、数学のつなかりや有用性を実感できる機会を増やす。		
理科	日々の授業において学習規律の向上に努め、視覚教材などを用いて、より一層の興味付けを行いながら基礎学力の涵養を努める。	授業における指導状況の情報交換に努め、課題の共通理解を図ることで指導に役立てる。視覚教材、情報機器を積極的に導入・活用し、耐長工事による実験不足の解消を図る。 学習課題の小テスト等を実施し、学習内容の定着及び家庭学習の習慣づけに努める。		
	充実した進路指導を推進するために、個々の希望に対応した適切な進路学習指導を実施する。	進路補習において、センター試験・二次試験対策など、個々の希望に応じ、充実した補習になるよう努める。		
	それぞれの分野に関する最新の情報は共有を行い、教科の発展的指導・理系の進路指導の助力となるように努める。	関連する大学・企業・施設等の見学会や進路事業を計画的に実施し、教科指導、進路指導に役立てる。		

評価項目	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
英語科	英語を通して言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションをしようとする態度を育成する。	コミュニケーション英語Ⅰ・英語表現Ⅰを中心にCAETとのTT授業を定期的に実施する。		
	基本的な英語能力の定着を図る。	入学時に新入生の学力を把握し、基本的な内容の定着に努める。 リテラシーの実施やワークブックの活用により家庭学習習慣を確立させるように努める。		
	進路達成に向けた教科指導の充実を図る。	副教材を取り入れ、密度の濃い授業を行う。 IT授業等を活用し授業内容の充実を図る。 各学年に的確な個別補習を実施する。		
保健体育科	運動の意義について理解を深めると共に健康づくりや体力の向上の方法を理解させる。また、生涯こわって健やかな身体を養うための身体能力を身につけ、そのための知識を定着させる。	健康のさまざまな側面について理解させ、健康づくりのための運動の大切さを理解させるとともに体力づくりを実践する。 2時間連続の授業を確保し、持久走授業を通して循環継続の基礎体力の向上並びに体力づくりを目指す。		
	心と体を一体としてとらえ、授業を通して運動を実践していく中で、心身の課題のとした発達を促す。	年度初めに全学年に集団行動を取り入れ、規範意識の向上に役立てる。 生涯スポーツの観点から生涯こわって、スポーツとのかかわりを持てるよう授業内容を工夫する。		
	個人生活や社会生活における健康や安全に関する事柄を生徒を通して捉え、自らの健康を管理し、改善できる資質能力、態度の向上を図る。	ルールやマナーを守り安全に配慮すること等により、体育の授業をより円滑にそして安全に参加し種かせるための心構えを身につけさせる。		
	キャリア系ライフスポーツコースの講演（講義）や実習の内容をより一層充実させる。	体育理論、生涯スポーツ、体育特講の各授業の年間計画を実践し、学年を超えた縦のつながりの強化を図る。 外部講師の活用を充実させ、内容の整理を図りながら、より質の高い取組を実施することにより、専ら種目の技術の向上に繋げる事を目指す。		
芸術科	生徒自らが積極的に芸術に取り組む姿勢を涵養し、芸術の表現や鑑賞の視野を広げられる心育や学力を養う。	授業を大切にさせるため、積極的授業時間に取り組めるよう教材を工夫しながら、表現の質を高められ、かつ達成感が得られる指導を目指す。 社会や身の回りの人との関わりを大切にする鑑賞教育を兼ねながら、芸術文化を愛好したり、相互鑑賞が可能となる指導を目指す。		
家庭科	生徒が自分の生活を幅広い視点から見つめ、主体的に生活の充実と向上を図る学びの方向性を示す。	主体的に生きる生活者として不可欠な技術・能力を身につけることを目標に実験・実習を取り入れる。 社会と自分の関わり、家庭生活と自分の関わりを実感し、生徒自身が主体的に考える力を育てる教材を工夫する。		
情報科	情報活用の実践力を高めるとともに科学的な理解を深め、情報社会に参画する態度を養う。	情報を適切に扱ったり、自ら情報活用能力を評価・改善するための基礎的な知識や考え方を学習させる。 情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要生や情報に対する責任を考える態度を養う。		

学校関係者 評価委員会 による評価	
-------------------------	--

次年度に向けた改善の方向性	
---------------	--